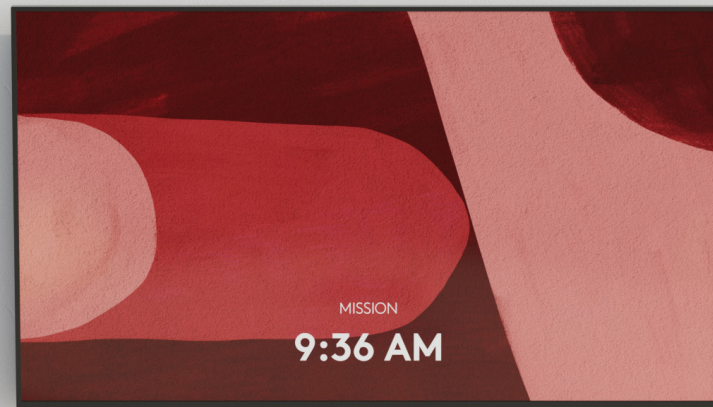


ロジクールのあ
らゆる会議室で
のビデオ会議に
関するガイド





皆さんは毎日のように行っています。それは私も同じです。

もちろん、それはビデオ会議の話です。

ビデオ会議は、私たちの仕事の一部となっています。Fellow によると、**私たちは毎週平均11.3時間を会議に費やしています**。それらの会議のうち、**86%は少なくとも1人のリモート参加者がダイヤルインしています**。

そのため、組織は一般的にこうした会議に対応する準備が十分に整っているはずですが、そうとも言いきれません。Omdia によると、**世界中の会議室のうち、何らかのビデオ会議機器を備えているのはわずか28%にすぎません**。さらに悪いことに、**それらの会議室のうち、完全に標準化されたネイティブな会議室（Microsoft Teams Rooms や Zoom Rooms など）はわずか6%です**。

会議体験をこれ以上無視することはできません。会議時間の浪費による実質的なコスト（Reclaim.ai によると、**従業員1人あたり年間2万9,000ドル**）とその浪費が従業員体験に与える悪影響を考えると、あまりにも多くのものがリスクにさらされています。皆さんの取り組みを支援するため、当社は、会議室のサイズや形状に関係なく、会議を価値あるものにするのに必要なすべてを網羅したガイドを作成しました。

最も一般的な会議室のサイズと組織におけるそれら活用方法

どの組織にも、コラボレーションを念頭に設計されたさまざまな会議スペースがあります。これは、さまざまなサイズの会議だけでなく、さまざまな目的にも対応しています。各スペースを明確に定義すればするほど、ビデオ会議用の機器を導入しやすくなります。

では、どのようなスペースの計画から始めるべきなのでしょう？当社は、それらを次のように定義しました。



ハドルルーム

収容可能人数

2～4名

一般的な用途

1対1の会議、自発的なコラボレーション、ブレインストーミング

小会議室

収容可能人数

4～6名

一般的な用途

集中的なチーム会議、クライアントとの通話

中会議室

収容可能人数

6～12名

一般的な用途

大規模なチーム会議、部門会議、正式なクライアントプレゼンテーション、クリエイティブなアイデアの創出やブレインストーミング

大会議室

収容可能人数

12名以上

一般的な用途

役員会議、トレーニングセッション、大規模プレゼンテーション

オープンスペース

収容可能人数

場所によって異なる

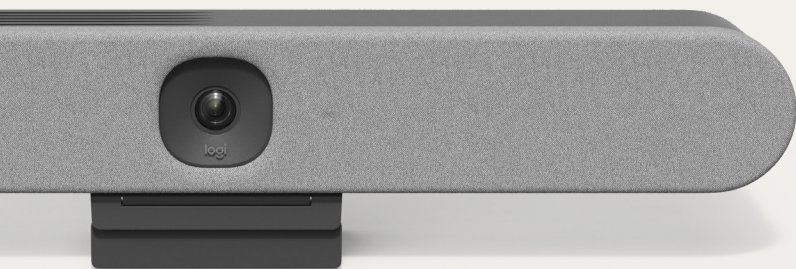
一般的な用途

スタンドアップミーティング、緊急会議、ブレインストーミングセッション

会議室のサイズが必要なビデオ会議機器に与える影響

会議室のサイズは、カメラ、マイク、スピーカーの性能に直接影響します。あるスペースにとって最適なソリューションは、他のスペースとは異なる可能性が高いため、小会議室から大会議室、オープンスペースまで、さまざまな会議室のサイズの微妙な違いを理解することが不可欠です。

小会議室では全員を画角に収めるために広角カメラが必要ですが、大会議室では、一体型ソリューションか追加コンポーネントを備えたモジュラーソリューションのいずれかを使用した、より広範囲のビデオおよびオーディオキャプチャが有効です。さらに、会議室のサイズの影響を最も受ける機器を分類しました。





会議室の正面にあるカメラ

会議室の正面にあるカメラは、一体型システムで設置を簡素化しつつ、あらゆるスペースの焦点を作るのに最適な方法です。ただし、会議室の正面にあるカメラに何が求められるのかは、最終的にはスペースのサイズと使用目的によって決まります。たとえば、小会議室では、会議室の正面にあるカメラにそれほどズーム機能は必要ありませんが、より広い視野角が求められます。会議室が大きくなるにつれて、より高いズーム倍率が必要になりますが、視野角は狭くて済みます。

さらに、小さなスペースであれば、通常は一体型のビデオオーバーすべての会話を捉えることができます。ただし、中～大会議室になると、会議に必要な一体感を生み出すために、追加のカメラやマイクが必要になることが少なくありません。そういえば...

追加のカメラ

より大きな会議室を用意する場合、会議室の正面にあるカメラの視界を補完する追加のカメラが必要です。リモート参加者にも、まるでその場にいて対面で会話しているかのように、全員の姿が見え、声が聞こえるようにしたいものです。そのため、参加者が長いテーブルの周りに座って会話をしており、会議室の正面を向いていない場合は、そうした視点も捉える必要があります。

会議室で追加の視点を捉えるための主なアプローチには、「内から外へ」と「外から内へ」の2つがあります。何が最適かは、最終的には会議室の目的と個人の好みによって決まります。

「内から外へ」のアプローチでは、カメラとマイクをアクションの中心（つまりテーブル）に配置し、顔や会話を最適に捉えます。たとえば、ロジクール Sight は、会議室の正面にあるカメラを補完し、会議参加者の正面と中央両方の視点を提供します。このようなマルチカメラシステムが非常に価値あるものとなっているのは、発言者の最適な視点をアクティブに提供するスマートな切り替え機能があるからです。

「外から内へ」のアプローチでは、会議室の壁全体にカメラやテクノロジーを配置します。これは、より大きな多目的スペース（トレーニングルームなど）や、テクノロジーを最小限に抑えてテーブルの上をすっきりと保ちたいスペース（役員会議室やハイエンドな顧客会議室など）を対象としています。

この場合、会議室の正面にあるカメラに加えて、Rally AI Camera のようなカメラを側面や背面の壁に取り付けます。これらは、長いテーブルに沿って並んでいるプレゼンターや参加者の角度を捉えるのに役立ちます。





追加のマイク

ビデオバーは小～中会議室に対応できるだけの音声出力を備えていますが、追加のマイクを使用すれば、より広い会議室の奥までオーディオカバレッジを拡張できます。標準的な会議室では、Rally マイクポッドのようなマイクが、テーブルトップマイクまたはペンダントマイクとして、ビデオバーの優れた拡張部分となります。ペンダントマイクはすっきりとした見た目になりますが、テーブルトップマイクでは対面の参加者全員が簡単にミュートコントロールを行えます。ロジクール Sight も、会議の中心となるテーブルに設置すると、ビデオとマイク両方の拡張部分として機能します。

より大きく複雑な会議室では、組み込み型のプロフェッショナルなオーディオソリューションを選択することをお勧めします。これはすっきりと無駄のないスペースで対話するという目的に合致しており、座席の配置が特殊であったり、変更が頻繁に行われたりするモジュール式の会議室に最適です。Q-SYS や Shure といった企業のオーディオソリューションは、ロジクールの AI カメラのモジュールシステムとシームレスに統合されるため、理想的な会議体験を簡単に構築できます。



ディスプレイ

ディスプレイがなければ、ビデオ会議は単なる電話会議になってしまいます。ディスプレイには、リモートの相手だけでなく、共有コンテンツも表示できます。小会議室では、全員が画面の近くにいるため、ディスプレイは1台で十分です。参加者が画面から離れた位置にいる中～大会議室では、デュアルディスプレイにすることで、一方の画面に参加者を、もう一方の画面にコンテンツを表示し、それぞれをより明確に表示させることができます。

会議室の標準を定めるときに他に考慮すべきポイント

会議室のサイズは必要なビデオ会議機器に大きく影響しますが、すべての会議室のサイズで共通のコンポーネントもいくつかあります。たとえば、次のようなものが挙げられます。

シームレスな会議への参加

すべての会議は、参加と管理が容易であるべきです。会議室ごとに一貫したワンタッチの参加体験を提供するために、ユーザーにシームレスな体験を提供する事前構成済みの会議室ソリューション

（Teams Room、Zoom Room、Google Meet Room など）の導入を検討してください。そのために、タッチコントローラーがバンドルされているか同梱されており、場合によっては会議室の会議システムを実行するためのミニ PC が含まれているソリューションを探してください。

より汎用的なプラグ&プレイ体験の場合、Bring Your Own Device (BYOD) 体験によって、ユーザーが選択したビデオ会議をユーザーのノートパソコンから直接実行することが可能です。これは、ロジクール Extend または アクティブ USB ケーブル を会議室に導入することにより、USB-C ケーブル1本で実現できます。

スケジューリングパネル

空いている会議室はすばやく簡単に見つけられるべきです。これを確実にする1つの方法は、各会議室の外に ロジクール Tap Scheduler のようなスケジューリングパネルを設置することです。これらを使用すると、既存の会議の詳細の確認や新しい会議のスケジュール設定が容易になるうえ、LED ライトによって現在の会議室の空き状況が表示されるため、空いている会議室を簡単に見つけられます。

在室および環境センサー

在室センサーは、会議室がいつ、どのくらいの時間使用されているのかを把握するのに役立つため、すべての会議室に導入すべきです。このデータにより、スペースをより適切に管理し、効率的に運用できるようになります。温度、湿度、CO2レベルなどの環境データを追加で取得することにより、会議室を快適に保ち、効率的に運用するのに必要なデータが得られます。



会議の質を高める 適切なビデオ会議 ソリューションの 仕組み

創出する会議体験は、会議の公平性という考え方に基づいている必要があります。会議室にいるのかリモートであるのかにかかわらず、誰もが互いに明確かつ直接的にコミュニケーションを取れるようにすべきです。そのことに例外はありません。

会議の公平性を確立するための鍵は、適切な会議室に適切な機器を使用することです。そうして初めて、会議の場所にかかわらず、全員の映像と音声を明確に届けられるようになります。では、適切な機器は会議体験の向上に他にどのように貢献するのでしょうか？影響を与えることができる最も一般的な領域は以下のとおりです。



迅速かつ直感的な会議へのアクセス

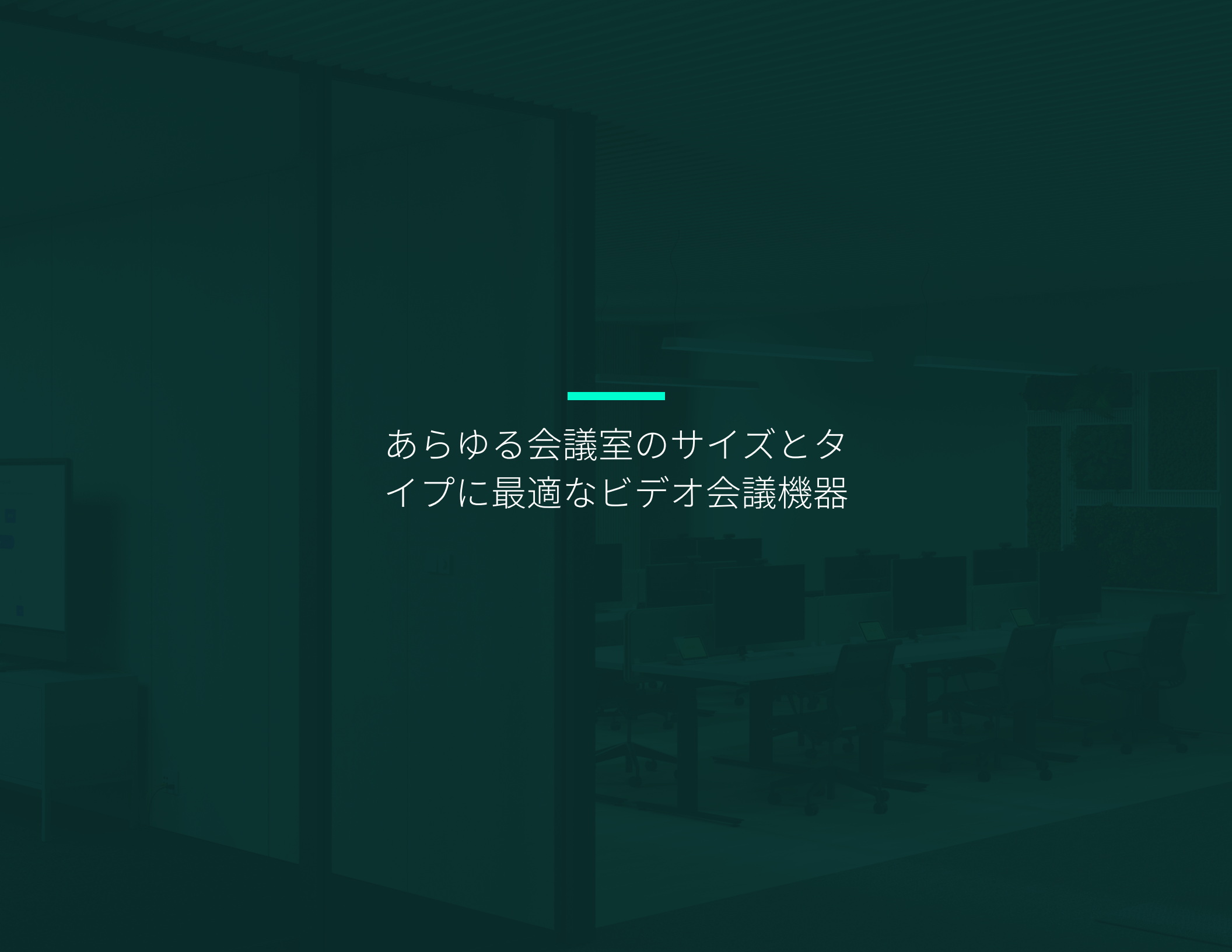
どの会議室に入っても、会議の開始と管理に関して同じ体験が得られるべきです。同じブランドの機器を導入することは一貫性を維持する優れた方法であり、単一の会議室ソリューション（Zoom、Microsoft Teams、Google Meet など）で標準化することにより、会議室全体の体験をさらに統一できます。

管理の簡素化

適切な機器も重要ですが、直感的、シンプル、かつ強力な管理ソフトウェアを使用することにより、ビデオ会議環境全体をより適切に可視化してコントロールし、最適なパフォーマンスと稼働時間を確保できます。ロジカル Sync のような強力な管理プラットフォームを使用すれば、一連のデバイス、オフィススペース、オフィスのデータやインサイトを1つの場所から一元的に管理し、オフィスを効率的に運営できます。言うまでもなく、これらすべてをリモートで、かつ大規模に行うことが可能です。

一貫したパフォーマンス

オフィスのすべての会議室で、オーディオとビジュアルで一貫性のある忠実度でいつもと同じ直感的なビデオ会議体験を提供する必要があります。会議室ごとにばらつきがあると、スタッフとの間に築いてきた信頼が損なわれ始めます。

The background image shows a modern conference room with several desks, chairs, and monitors. The room is dimly lit, with a dark teal color scheme. The text is overlaid on the left side of the image.

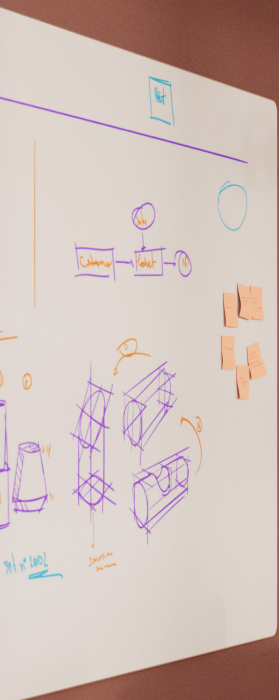
あらゆる会議室のサイズとタイプに最適なビデオ会議機器

オープンスペース

RALLY BOARD 65



ロジクール SCRIBE



RALLY BAR HUDDLE

ロジクール TAP



ハドルスペースと小会議室

追加製品

ロジクール Tap Scheduler
ロジクール Spot
ロジクール Extend (Rally Bar Huddle 用) またはアクティブ USB ケーブル (MeetUp 2用)

代替製品

MeetUp 2
ロジクール Tap IP



中会議室

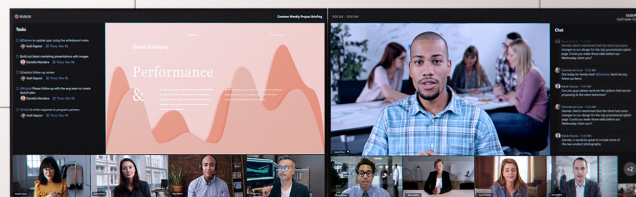
追加製品

Rally マイクポッド
ロジクール Tap Scheduler
ロジクール Extend

代替製品

Rally Board 65
Rally Bar Mini
ロジクール Tap IP

ロジクール SCRIBE



RALLY BAR

ロジクール TAP

RALLY マイクポッド

大会議室

標準会議室

追加製品

ロジクール Sight
ロジクール Tap Scheduler
ロジクール Spot
ロジクール Extend

代替製品

ロジクール Tap IP



大会議室

役員会議室

追加製品

Rally AI Camera
Rally AI Camera Pro
ロジクール Tap Scheduler

代替製品

ロジクール Tap IP



RALLY マイクポッド

RALLY AI CAMERA PRO

ロジクール SCRIBE

RALLY スピーカー

ロジクール TAP

大会議室

多目的会議室

追加製品

Rally AI Camera
ロジクール Tap Scheduler
ロジクール Spot

代替製品

ロジクール Tap IP
サードパーティ製スピー
ーカーおよびマイク

あらゆる会議室のサイズに対応する段階的な導入のベストプラクティス

一貫したセットアッププロセスによって導入が合理化され、すべての場所で信頼性の高いパフォーマンスが得られます。

1.

会議室の寸法、形状、ユーザーの行動を評価します。

2.

会議室で実現したいコラボレーション体験（キャプチャ対象、スピーカーの位置、ミュートへのアクセスなど）を定義します。

3.

BYOD か会議室ソリューションを選択します。

4.

オーディオとビデオのカバー範囲とキャプチャが最適化されるように会議室を整えます。

5.

カメラ、ディスプレイ、マイクの配置を計画します。

6.

適切なロジクール機器を選択します。

7.

コンポーネントを接続し、ケーブルをきれいに配線します。

8.

オーディオ、ビデオ、ネットワークの安定性をテストします。

9.

監視と更新のためにデバイスをロジクールSyncに登録します。

10.

模擬会議を実施し、フレーミングと音質を確認します。



スペースに最適なソリューションを見つけるためのサポートが必要な場合

このようなガイドがあっても、すべての会議スペースを構成するのは大変な作業です。そのため、途中で疑問が生じた場合や最初から専門スタッフのサポートが必要な場合は、当社のソリューションスペシャリストにご相談ください。従業員の皆さんに喜んでいただくと幸いです。



logicool for business

右記のリンクからお問い合わせください。

購入後のお問い合わせ：
株式会社ロジクールカスタマーリレーションセンター
<https://prosupport.logi.com/>

©2026 Logitech, Logicool.株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。ロジクール、Logicoolおよびそれらのロゴは、Logitech Europe S.A.および/または米国およびその他の国における関連会社の商標です。Google MeetおよびGoogle Meetロゴは、Google LLCの商標です。Microsoft Teams、およびMicrosoft Teamsロゴは、Microsoft Corporationの商標です。ZoomおよびZoomロゴは、Zoom Video Communications, Inc.の商標です。その他のサードパーティ商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に記載されている製品、価格、および機能情報は、予告なく変更される場合があります。

発行：2026年7月